



平成 27 年 4 月 28 日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（4月27日観測）

4月27日、羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により、西之島の火山活動の観測を実施した。

1．噴火の状況

火砕丘にある火口から、1分間に2～3回の頻度で白色の噴煙を上げて噴火が継続していた（図1）。火砕丘の北東斜面に新たに形成された溶岩の流出口から溶岩流が北方向に流出していた（図2）。このうち1条の溶岩流が北東部の海岸線に達し、水蒸気が上がっていたが、海岸線に顕著な変化は認められなかった（図3）。

西之島の火山活動は引き続き継続しており、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径4kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけている。

2．新たに形成された陸地の状況

天候条件が悪く、全体の形状や大きさのデータは取得できなかった。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「火口での爆発回数は減っていたが、噴煙の放出は続いている。火砕丘北東斜面に溶岩流出口が開き、溶岩の流下が継続している。マグマの頂部は下がっておらず、深部からのマグマの供給は継続していると推察される。」

とのコメントが得られた。



図1 南東方向から見た西之島（4月27日撮影）



図2 火砕丘の北東斜面から流出する溶岩流（4月27日撮影）



図3 北東方向から見た西之島（4月27日撮影）
1条の溶岩流が海岸に到達し、水蒸気が上がっている。



図4 残存する旧西之島（4月27日撮影）